

3. 植物調査結果の概要

3. 植物調査結果の概要

(1) 確認種数

今回とりまとめを行った19河川で確認された植物は176科約2060種です。また、確認種数が多かった河川は、東北地方北上川の782種、北陸地方阿賀野川の780種などでした。

(2) 特定種の確認種数（資料Ⅱ.3.1）

今回とりまとめを行った19河川で確認された特定種は、レッドリスト絶滅危惧ⅠA類のヒシモドキ、トネハナヤスリ、ツキヌキオトギリ、クロミサンザシ、エゾニガクサ、ホソバエゾノコギリなど全部で74種でした。また、特定種の確認種数が多かった河川は、東北地方北上川の24種などでした。

（注）特定種の定義

本資料においては、次のものを特定種としています。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- ・「自然公園法」の指定植物
- ・環境庁編（1997-1999）「レッドリスト」掲載種
- ・我が国における保護上重要な植物種及び植物群落の研究委員会植物種分科会（1989）「我が国における保護上重要な植物種の現状」掲載種

(3) 外来種の確認種数と割合（資料Ⅱ.3.2）

今回とりまとめを行った19河川で確認された外来種は280種です。また、現地確認種数に占める外来種の割合が高かった河川は、中部地方矢作川、関東地方烏・神流川の約23%などでした。

（注）外来種の選定基準について

本資料における外来種は、おおそ明治以降に侵入したと考えられる国外由来の動植物を扱い、侵入後に日本で定着した帰化種であるか否かは、判断が困難な種があるため考慮していません。また、外来種の選定は、巻末に添付した文献および学識経験者の意見により行っています。

(4) 主な外来種〔ハリエンジュ（ニセアカシア）、クロバナエンジュ（イタチハギ）、シナダレスズメガヤ、カモガヤ、ホソムギ・ネズミムギ・ネズミホソムギ、ブタクサ、オオブタクサ〕の確認状況（資料Ⅱ.3.3）

確認状況の概要は、8～9ページに示すとおりです。

(5) 樹林、草地等の面積の割合から見た河川の特徴（資料Ⅱ.3.4）

樹林、草地、裸地、人工草地の割合から見た河川の特徴については、17ページに示すとおりです。